



信州大学教育学部附属長野小学校学校だより

題字：副校長、文責：教頭



学校では、水泳の学習が始まり、子どもたちの歓声が聞こえてきます。今回は7月の初めの副校長講話の様子を中心にお伝えします。今回のお話は、「信濃の国」を巡る講話の第3回、子どもたちの投票の第3位の場所からのライブ中継です。

校歌「信濃の国」を巡る

（7月3日 副校長講話）

第3回 ～浅間は殊に活火山～

1 第3位浅間山

全校の皆さんおはようございます！それでは、早速第3位の発表をします。第3位は、じゃかじゃかじゃかじゃかじゃかじゃかん第3位は、ここです。（周りの風景を写す）みなさん、ここがどこかわかりますか？

そうです！浅間山です！私は、今浅間山が目の前に見える黒斑山（くろふやま）という山の頂上に来ています。浅間山は現在 2568mの山です。私が今立っ

ている黒斑山は、標高 2404m の山です。実は、浅間山は、皆さんの投票では、前回の「諏訪の海」と同点の 202 票だったんです！

2 浅間山の位置

では、浅間山の場所を確認しましょう！附属長野小学校を車で出発して登山口である高峰高原まで来て、車を降りて歩いて、ここ黒斑山の頂上に着きました。

3 浅間山を眺めてみると

では再び浅間山を見てみましょう。みなさん何か気付くことありませんか？そうですね。頂上から筋のようなものがたくさん下に向かっていきます。これは、「雨裂」といいます。これは、浅間山に降った雨水の流れによってできた溝のような地形です。また、今私がいる黒斑山の周辺には、このように植物がたくさん生えていますが、浅間山はどうでしょうか？

そうですね。浅間山の下の方はこのように植物が生えていますが、頂上に近づくにつれて植物が生えていませんね。そうです。浅間山は、活動中の新しい火山のため植物が生えることが難しいのです。下の方から徐々に植物が生え始め、進出している最中です。現在浅間山は、毎日のように火山性の地震が起っています。新聞には、1日に約30～90回も地震が起きているそうです。また、この山の西側が火山活動で今盛り上がってきているということです。今も浅間山は、生きているのです！このような状況から噴火警戒レベルが2ということで、今は頂上に登ることが禁止されています。

4 昔の浅間山

さて、今日私が、なぜここに来たかという、それには理由があります。実は、昔の浅間火山は、この場所にあったからなんです。昔の浅間山は、今の浅間山よりも300m以上はるかに高く、2800m以上の富士山型をした火山だったそうです。その証拠がこの目の前の景色に残っ



ています。そうですね、緩い曲線を描いたような崖が、ずっとこの黒斑山の山頂まで続いています。実は、この石の研究の結果、今から約2万4千年前に、この場所で大爆発のような噴火が起き、この山の東側部分が跡形もなく吹っ飛び、今はこの湯の平と呼ばれる巨大な窪地となっているということなんです。この吹っ飛んだものは、主に群馬県側と長野県側に流れ下り、遠くは群馬県前橋、長野県岩村田まで達したと言われていました。そして、今は、この窪地を埋めるように、この目の前の前掛山と呼ばれる浅間火山が、今も成長し続けているんです。

5 足元の石に目を向けると（「表題」右の写真）

さて、次に足元を見てみましょう！たくさん石が落ちています。これは、昔の浅間火山の石です。石の周りを見ると紫色をしています。石の本当の姿は中身にあります。中は、黒い鉱物が無数に入っています。これは、安山岩という石です。今の浅間山は、もう少し黒っぽい色をしています。かつての浅間山は、少し白っぽい安山岩によってできた山だったということがわかります。この石の種類の違いからも、かつての噴火の大きさもわかっちゃうんです。

6 足元の植物に目を向けると

次に岩の間に生えているかわいらしい植物にも目を向けてみましょう。こちらは、クロマメノキという高山に生える植物です。実は黒紫色に熟し、食べると甘いです。別名アサマブドウとも呼ばれています。また、こんなかわいらしい小さな花も咲いています。これは、コケモモという花です。名前の由来として、一説には、岩場などにこけのようにへばりついて桃色をした釣り鐘状の花を咲かせる様子からこの名前がついたと言われています。また別の説では、コケモモの「コケ」は、苔のように地面を這うように成長することから。「モモ」は、果物の「桃」にたとえたのではなく、「木の実」の意味。つまり、コケモモは「苔のように小さな木になる実」を表した名前である、という説もあります。名前の由来を知ることにも楽しいですね。



7 浅井洌先生の物語

さて、信濃の国を作詞した浅井洌先生は、その当時の師範学校（現在の信州大学）の生徒さんと何度もこの浅間山を登ったという記録が、この「信濃の国物語」という本に残っています。そして、その当時に、詠んだこのような短歌があります。

「浅間山 けぶりの底の阿鼻地獄 もゆる火の音 すさまじきかな」

きっと、その当時は、山頂までの登山が禁止されていなくて、浅間山の火口の底のにえたぎったようなマグマを実際に見ることができて、「もゆる火の音 すさまじきかな」と短歌にうたったのでしょうか！

8 最後に

全校の皆さん、今日は、浅間山からお話をさせてもらいました。信州には、この他にもたくさん有名な山があります。しかし、改めて、なぜ浅井洌先生は、「信濃の国」の歌の中に浅間山を選んだのでしょうか。どんな思いでこの浅間山を歌の言葉に入れたのでしょうか。

また、クラスで友達と考えてみてください！それでは、皆さん、次回もお楽しみに！さようなら！また、学校で会いましょう！

このお話を受けて、クラスでは様々な子どもたちの予想が語られていました。この土地だからこそ考えることのできる意味のある学びの中で、子どもたちは育まれていくのですね。